

本日の会議の流れ

- 1 前回の振り返り
- 2 こども食堂等の食料支援について
- 3 食料支援を通じたつながりづくりのために
- 4 まとめ（本日の振り返り）

1 前回の振り返り

開催概要

日時 令和4年3月23日（水） 10時～12時

出席者 中央第2地区社会福祉協議会、大師第1地区社会福祉協議会、大家族ふるさと食堂、合同会社ゆいまーる・いきがい工房さらら、社会福祉法人青丘社、川崎区社会福祉協議会、こども未来局、川崎区役所

内容 各団体、市の活動内容等の説明、意見交換



1 前回の振り返り

つながりに関する主な意見

- ・子どもたちの居場所・つながりをつくることを目的にやっていたが、見守り対象となっている家庭の子どもが来てくれ、とても喜んでもらったこと、活動を続けていけば少しずつそういう家庭ともつながっていけることを実感した。
- ・以前はママの居場所という感じだったが、お弁当にしたことで、食に困っている子どもたちが来られるようになったと感じている。
- ・こども食堂で活動するために地域の元気な高齢者が集まり、高齢者の居場所にもなっている。
- ・支援者・協力者と地域の人々をつなぐ。その中で見守りが自然と生まれる、という気持ちでやっている。
- ・活動を通じて信頼関係を築き、地域で子どもたちを見守る大人を増やしていくことで、つながりづくりをしていきたい。
- ・こ文などの子どもとつながっている施設もあるので、そこと一緒にやっていくとやりやすいと思う。
- ・取組を知ってもらって協力者を増やすとともに、地域の人たちに現状を知ってもらい、何かできることがあると気づいてもらえるような投げかけをしていきたい。

こども食堂等の運営に関する主な意見

- ・地域活動とカフェとの線引きが難しく、地域への宣伝がなかなかできなかった。
- ・無償で使用できる会場を見つけることが課題。
- ・子どもは遠くまではいけないので、食堂やフードパントリーが小学校区にひとつずつくらいできていくとよいと思う
- ・食料の安定的な確保や食料の供給量、在庫状況の把握が必要。
- ・始めたいと思ったときに悩んだ、という話があった。
- ・今後どうやって仲間・人材を増やしていくかが課題。

2 こども食堂等の食料支援について

食料支援の重要性

- ・様子を見に行きたいがなかなか会ってもらえない方でも、食べ物を持っていくと会ってもらえることがある。
- ・コロナ禍で、学校が休校になったことにより、食事を給食のみで賄っていた子どもが見えてきたり、食堂から配食に切替えたことにより、これまでの利用者層以外からの利用があるなど、潜在的な需要（＝支援の必要があるかもしれない家庭）が見えてきた。
- ・川崎区には子どもの居場所が少ないと言われているが、子ども食堂は子どもたちの居場所となったり、スタッフや利用者同士のつながりも生まれる、地域活動の場となっている。
- ・定期的に子どもたちと接していることで信頼感を得ることができ、家庭の話など個別の情報を聞くことができたり、普段との違いに気づくことができる可能性がある。



- 食料支援は、様々な人が集まる手法として効果的で、その中に支援の必要な子どもがいることがある。
- 地域に、様々な人が集まりやすく、居心地のよい、楽しい場所が、継続して存在することは、誰もが安心して生き生きと暮らせるまちづくりの推進には、必要なことである。



3 食料支援を通じたつながりづくりのために

「見守り」について

- ・支援の必要な子どもについて
- ・地域の中でのつながり

見守りネットワークづくりについて

- ・こども未来局の取組の紹介

